

歴史学という俯瞰

俯瞰学の技法を紹介してきたが、今回は時間的俯瞰についての話である。歴史学はまさに社会や国の事象の時間的俯瞰である。年表はそのもっとも単純な記述様式で、見ていると興味が尽きない。大学受験で歴史を選択した人は座右の参考書であつたはずだ。

歴史学はこの時間的俯瞰の上にある、フレームワークを発見したり、その時と空間を超えた共通性を認識したり、さらに進んで現代の課題に対する知恵を見出すものである。この歴史学の威力を衝撃的に感じたのは1990年に出版された編集工学研究所の「情報の歴史」であつた。「象形文字から人工知能まで」と題する松岡正剛の前書きには、「我々はずいぶん最近の変化だけを強調しすぎるきらいがある……自身をもう一度歴史の渦中に投げ入れて、改めて『関係の発見』の旅に出なすべきである」とある。その旅は7000万年前から始まり時間軸を同期させながら5つの領野の事象を横で見えていく作りの版組みになっている。私が社会人となつた1971年を改めて見直してみると、ベトナム反

現代社会を俯瞰する

vol. 4

松島 克守

Katsumoti Matsushima



Illustration: ネモト円筆



PROFILE

まつしま かつもり

俯瞰工学研究所 所長(東京大学 名誉教授)

東京大学工学部卒業、IHI航空機エンジンの生産技術者を経て、東京大学で生産システムの知能化、アレキサンダー・フンボルト財団奨学研究者としてベルリン工大でCAD/CAMの研究に従事。その後日本IBMでパソコン、製造業のマーケティング戦略の責任者、プライスウォーターハウス日本法人常務取締役を経て、99年より東京大学工学系研究科教授。経営戦略学専攻で「俯瞰経営学」を講義。総合研究機構・機構長、イノベーション政策センター長等を歴任、09年3月退官。現在も地域活性化プロジェクトの支援、プラチナ構想ネットワークなどを推進するとともに、上場企業の社外役員など経済活動にも参画。(NPO) ビジネスモデル学会会長、(NPO) ITコーディネータ協会理事などを務め、主な著書に『知の構造化の技法と応用』、『地域新生のデザイン』、『MOTの経営学』などがある。



松岡正剛 監修
「情報の歴史」
編集工学研究所 刊
(1990)

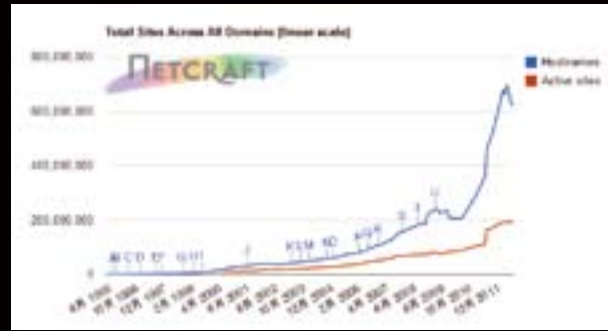
戦、キッシンジャー外交、林彪墜落死、中国国連復帰・台湾追放、ロス・ロイス倒産、インテル4001(最初のマイコン)、ARPAネット(インターネットの原型)稼働、ドルショック・スミソニアン体制(円高の始まり)、土居健郎「甘えの構造」、宇井純「公害原論」、山本寛斎、ラルフ・ネーダーの反公害運動、NHK総合テレビのカラー化、飯面ライダー、カップヌードル、日本マクドナルド…などがこの1年間

の事象として見えてくる。改めて今までの自身の人生はこのベクトルの上を歩いてきたことを実感した。この「情報の歴史」は時間的俯瞰の技法の好例として強くお勧めしたいが、絶版で入手できない。古書で1996年版はなんと約3万円だが、1990年版は数千円である。各地の図書館にはあるのでご覧いただきたい。

Excelでみる 時間的俯瞰の技法

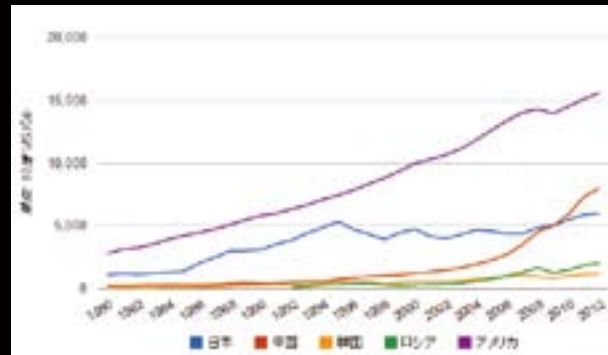
Excelシートでできる時間的俯瞰の技法がある。あるプロジェクトを俯瞰的に理解することは極めて重要であるが、おびただしい議事録やドキュメント、そして関連するメー

webサイトの数の推移



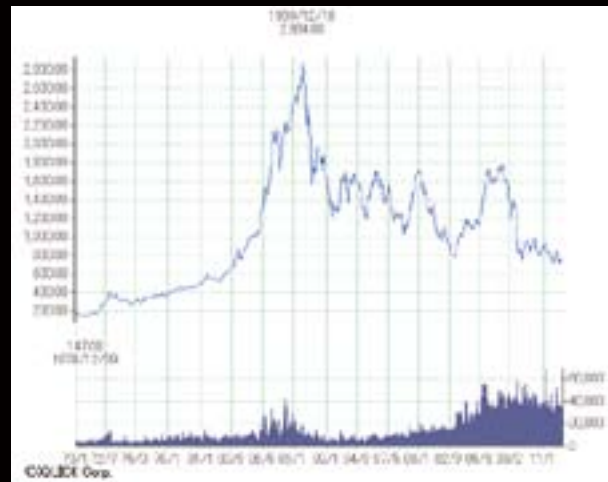
<http://news.netcraft.com/archives/category/web-server-survey/>

名目GDPの推移 世界経済のネタ帳



<http://ecodb.net/>

東証株価の長期推移



本は経済カードを竹島問題に使おうとしている。

日本経済について様々な指標が配信されアーカイブされているので視点さえきちっと持てば統計的俯瞰は容易にできる。ここでは日本の株価を俯瞰してみよう。時々はこの俯瞰図を見ることがしている。短期の情報にとらわれがちであるが、この図は腹式呼吸で気持ちを落ち着かせるような力がある。バブルのピークの前に全ての株式を売却した人がいるとも聞いた。長期的にこの俯瞰を見ていけば異常に気がついたのだろう。出来高を見ていると最近の値はバブル期を遥かに凌ぐ。これは金融市場で動いている投資マネーが異常に膨張していることを示しているが。

統計的な情報はほとんど無料で提供されている公共財であるが、膨大なゆえに自身の視点が決まらないと見ることができない。国連の統計は地球規模を俯瞰する貴重なデータを提供しているがどこまでこれを活用できているか。この雲のようなデータを、独自の興味深い視点で、見える化して提供しているのがInfographicである。これも積極的に利用したい。例えば下記のサイトは毎日作品を配信してくれる。

<http://dailyinfographic.com/>

情報の歴史の版組



ルの関係性を理解できず、従って状況を俯瞰的に認識できない為、判断や行動に迷っている人は多い。関連するすべての情報をファイルとしてPCのみに、日付を先頭に付加して集める。そしてそれを時間軸でソートするだけである。これを順に読んでいくとプロジェクトの全貌が見えてくる。

新聞の記事はその日その日の展開をニュースとして配信してくれるが、一つの事件を追っていき前後関係を俯瞰的に理解すれば本質的な構造を認識できる。例えばこの数カ月シャーブに関するニュースは多く、方々がその行く末を案じていると思うが、あれほどまで色々あるところになっているのか見えなくなってきた。この場合ではないだろうか。この場合では電子的にクリップして蓄えてある記事のファイルをこの手法をより整理してみるとかなり整理できる。

実は事は一筋ではない。これに東洋経済や日経ビジネスの記事を加えると一層理解しやすい。あわせて、シャーブの財務データの10年分を見るときさらに認識が深まる。2007年度まで高成長してきた業績は2008年度以降約20%落ちたまままだ、2012年度の混乱はこの5年間の経営の無策の結果に見えてくる。10

すでに10年間の時系列データで企業経営を俯瞰する俯瞰技法を紹介したが、統計データを10年、あるいは数十年単位でグラフ化してみる事は統計的俯瞰の技法である。ともかく分かり解り易く、気つきと得心をくれる。

現在はおひたしい情報がネットワーク上に公開されているが本当に

時系列データによる統計的俯瞰

この手法を、手伝っていた2件の訴訟で弁護士に薦めたが何れも極めて有効であって、感謝された。時間軸に沿って情報を見ていくと相互の論理的な矛盾が見えてくる。矛盾を補い、反論や状況証拠を補強し、また相手の論理的な矛盾を発見してそこを攻めていくわけである。この時間的俯瞰の認識技法を、難航している交渉やプロジェクトのブレイクスルーに利用されては如何だろうか。

PCのテキストデータ以外にも図表や写真、音声も時系列で整理ができる。